

世界で最も輝きを放つ、歴史ある華やかな舞台が再びやってくる！
初演の伝統を受け継ぐ“ワガノワのくるみ”

本家本元・ワガノワの十八番 世界最高の「くるみ割り人形」

世界中で愛されている最も有名なバレエ作品のひとつ「くるみ割り人形」。この「くるみ割り人形」が生まれたのはロシアです。
1892年、世界が誇るマリンスキー劇場で帝室バレエ団(現・マリンスキー劇場バレエ)と
帝室バレエ学校(現ワガノワ・バレエ・アカデミー)によって初演されました。その後125年以上に亘り上演され、世界中から多くの観客を集めています。

The Nutcracker

華やかで、美しく、可愛らしく、夢があるファンタジー

瑞々しい世代が「子どもから大人へ」ときめきき表現、豪華で美しいワイノーン版
現在ワガノワ・バレエ・アカデミーが上演している「くるみ割り人形」は、ワシリー・ワイノーンが振付けたものです。
世界で上演されている様々な演出の原点ともいえる作品です。
この版の特色は、マーシャ(クララ)の現実と夢の世界を明確に分けていることで、
夢の世界となる二幕からは幻想性を強めた演出となっています。
魔法でどんどん大きくなるクリスマスツリーや雪の精が舞う印象的な場面、
雪のワルツなど、美しい舞台劇が詰まっています。
そして、「ワガノワのくるみ」の一幕の見どころは、少女マーシャとくるみ割り人形が、
プリンセスと王子とかわるシーンです。
子どもから大人の世界に足を踏み入れるマーシャの心のときめき…、
スターとして花開く直前の若い美しさ、そのきらめきは、大人のバレエ団では出せない瑞々しい輝きを放ちます。

Story 「くるみ割り人形」ストーリー

大人から子どもまで愛されるストーリー、チャイコフスキーの美しい音楽と共に
クリスマスの夜、パーティーに次々と客がやってくる。そこで、ドロッセルマイヤーは人形劇を始める。
マーシャ(クララ)は、くるみ割り人形をプレゼントされる。
招待客が帰った後、マーシャはくるみ割り人形を抱いて眠る。12時の鐘、大広間のクリスマスツリーにおすみたらが集まり、
マーシャをおびえさせる。くるみ割り人形はお母さんの言葉を聞いておすみたらと戦う。おすみたらがなくなると、
ドロッセルマイヤーは少女マーシャとくるみ割り人形を、プリンセス・マーシャと王子に交身させる。
2人は雪の精に見守られながら、夢の国へと向かい…各国の踊りや有名な花のワルツに彩られた少女マーシャの成長物語。

Vaganova Ballet Academy ロシア国立 ワガノワ・バレエ・アカデミー

ロシアのクラシックバレエの源泉といわれるバレエアカデミー。
クラシックバレエ界で現在、世界最高峰に位置するマリンスキー・バレエやポリショイ・バレエの
ダンサー達のほとんどが、同アカデミーの卒業生であることが、その最大の理由です。
ニジンスキー、バフワ、ヌレーエフ、ハリシニコフ、ルジツキ、ヴィシニョフなど、
同アカデミーが輩出した世界的ダンサーには枚挙にいとまがありません。
現在ワガノワでは、ロシア全土から集まってきた
9歳から19歳までの生徒たち、およそ250人が学んでいます。



CHICKEN PHOTO